

④かんしょ

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を9kg/10a、定植時作条処理土壌混和として1回用いたところ、散布後104～116日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑤てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回定植時苗床灌注（1L/冊）したところ、散布後160～175日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、20.0%フロアブルの原液を489mL/100,000ペレット種子（種子コーティング）、16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回定植時苗床灌注（1L/冊）及び2000倍希釈液を計3回散布（200,500L/10a）したところ、散布後14～30日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150,200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.016, 0.014 ppmであった。

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150,200L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.84, 2.26 ppmであった。

だいこん（つまみ菜）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後10日の最大残留量は0.48 ppmであった。

だいこん（間引き菜）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後22日の最大残留量は0.14 ppmであった。

⑦キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200,300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.18, 0.16 ppmであった。

⑧レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.58, 1.33 ppmであった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

⑨ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.05, 0.14 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計4回散布（200, 150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.09, 0.13 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑩トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.23, 0.12 ppmであった。

⑪ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 150～200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.21, 1.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑫なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（162.5～200, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.290, 0.379 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑬きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.695, 0.224 ppmであった。

⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.038, 0.012 ppmであった。

⑮すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.022, 0.011 ppmであった。

⑯温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.246, 0.086 ppmであった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は3.24, 1.09 ppmであった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の20倍希釈液を1回樹幹散布（22.2, 13.3L/10a）及び2000倍希釈液を計3回散布（666, 800L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.08 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の20倍希釈液を1回樹幹散布（22.2, 13.3L/10a）及び2000倍希釈液を計3回散布（666, 800L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.74, 2.96 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑰夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.023, 0.292 ppmであった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.362, 2.18 ppmであった。

夏みかん（果実）^{注4)}を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.118, 0.726 ppmであった。

⑱すだち(果実)

すだち(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.297 ppmであった。

⑲かぼす(果実)

かぼす(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.204 ppmであった。

⑳りんご

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.155, 0.042 ppmであった。

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(350, 400L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.15, 0.06 ppmであった。

㉑なし

なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.39, 0.18 ppmであった。

㉒もも

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.124, 0.084 ppmであった。

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は1.00, 2.04 ppmであった。

㉓うめ

うめ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(700, 500~800L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は0.97, 1.12 ppmであった。なお、500~800L/10a散布された1例については、適用範囲内で試験が行われていない。

㉔おうとう

おうとう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(625, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留

量は 1.08, 1.96 ppm であった。

㊸ぶどう(果実)

ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後14~56日の最大残留量は0.506(大粒種), 1.43(小粒種) ppm であった。

㊹かき

かき(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppm であった。

㊺茶

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppm であった。

茶(浸出液)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppm であった。

㊻いちご

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株、定植時植穴処理土壌混和として1回用いたところ、混和後62~104日の最大残留量は0.22, 0.06 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊼あんず

あんず(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(556, 500L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.72, 1.06 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊽れんこん

れんこん(根)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、散布として計3回用いたところ、散布後7~21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

れんこん(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm

であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③① **いんげんまめ**

いんげんまめ（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 244L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③② **あずき**

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.09, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③③ **ブロッコリー**

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～21日の最大残留量は0.33, 0.07 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③④ **アスパラガス**

アスパラガス（若茎）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.10, 0.24 ppmであった。

③⑤ **リーフレタス**

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200～230, 238 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は7.96, 6.67 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑥ **サラダ菜**

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150～200, 195L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は9.99, 4.41 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑦ **えだまめ**

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（定植時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200,

300L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.69, 0.26 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑧ **にら**

にら (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 6.18, 1.42 ppm であった。

③⑨ **ネクタリン**

ネクタリン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400, 500L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.64, 0.58 ppm であった。

④⑩ **すもも**

すもも (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500, 400L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.10, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑪ **ミニトマト**

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 2g/株 (定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (300~400L/10a) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は 0.66 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5%粒剤を 2g/株 (定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は 0.90 ppm であった。

④⑫ **にがうり**

にがうり (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 2g/株 (定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (250, 180L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は 0.28, 0.16 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑬ **チンゲンサイ**

チンゲンサイ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 2g/株 (定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (200, 300L/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は 0.16, 0.85 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④④ **みずな**

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（40～150, 227.8L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は1.07, 2.46 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑤ **おくら**

おくら（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200, 100～150L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.36, 0.30 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑥ **マンゴー**

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（320L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（320L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

④⑦ **いちじく**

いちじく（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.27 ppmであった。

いちじく（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.07 ppmであった。

④⑧ **あさつき**

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.59, 0.96 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑨ **わけぎ**

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.13, 0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3) だいず（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

注4) 夏みかんの果実については各試験区の果肉／果皮重量比を用いて算出している。

7. 乳汁への移行試験結果

乳牛2頭に対し、クロチアニジン14mg/頭/日を朝の搾乳直後に7日間連続して経口投与した。投与開始日、投与開始後1、3及び7日、最終投与後1、3及び5日に、搾乳機を用いて1日に2回搾乳し、同一日の試料を十分に攪拌し、分析試料としてクロチアニジン含量を測定したところ、いずれの試料においても、残留は検出されなかった。（検出限界0.01ppm）

8. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成17年10月4日付厚生労働省発食安第1004001号及び同法第24条第2項の規定に基づき、平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718028号により食品安全委員会あて意見を求めたクロチアニジンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：9.7 mg/kg 体重/day

（動物種） ラット

（投与方法） 混餌投与

（試験の種類／期間）慢性毒性/発がん性併合試験/2年間

安全係数：100

ADI：0.097 mg/kg 体重/day

9. 諸外国における状況

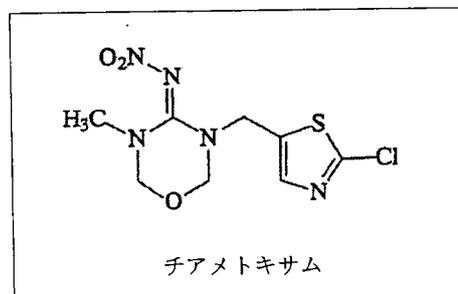
コーデックス、米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国及びカナダで、とうもろこし、なたね、乳等に基準値が設定されている。

10. 基準値案

(1) 残留の規制対象

クロチアニジン

ただし、クロチアニジンは、同じく殺虫剤であり、農薬として登録・使用がなされているチアメトキサム（平成16年8月3日付厚生労働省発食安第0803001号及び平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718002号により、食品安全委員会に意見聴取中）の代謝物でもあり、チアメトキサムの使用によるクロチアニジンの残留が認められている。基準値案は、クロチアニジン使用によるクロチアニジンの残留の他、チアメトキサム使用由来のクロチアニジンの残留も含め、設定した。



なお、米国等の基準にあつては、チアメトキサムの基準の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、食品衛生法上はチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とする。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

注) クロチアニジン使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績と、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績がある場合、双方共に同一作物に使用された場合の最大残留量を考慮して定めた。記載のある作物残留試験成績のうち、右側の欄に示した試験成績（チアメトキサム由来クロチアニジン作物残留試験成績）は、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの残留値を示したものである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のクロチアニジン使用によるクロチアニジン及びチアメトキサム使用によるクロチアニジンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量(TMDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。詳細な暴露評価は別添3参照。

	推定摂取量／ADI (%) ^{注)}
国民平均	16.5
幼小児 (1~6歳)	31.7
妊婦	14.0
高齢者 (65歳以上)	16.7

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

- (4) 本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。
- (5) クロチアニジンの基準値については、本物質がチアメトキサムの代謝物でもあることから、現在食品安全委員会で行っているチアメトキサムの食品健康影響評価の結果を踏まえ、今後必要に応じ見直しの検討を行うものとする。

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃 場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.134(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.104(1+3回,13日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キロ粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:<0.004(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.026(1+3回,13日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.048(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.023(1+3回,13日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.02(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,14日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.09(2+3回,14日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.14(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.12(2+3回,21日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.01(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.02(2+3回,21日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.13(2+3回,14日)(#)
稲 [※] (玄米)	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.04(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.16(2+3回,14日)(#) 圃場C:0.17(2+4回,28日)(#)
稲 [※] (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.10(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.07(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.11(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.132(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キロ粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.118(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.176(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.12(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.142(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.72(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.26(1+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.28(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.75(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.18(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.78(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.17(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.16(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:1.02(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.81(2+3回,21日)(#) 圃場B:2.57(2+3回,14日)(#) 圃場C:2.28(2+4回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:1.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.54(2+3回,14日)(#)
だいず [※] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
だいず [※] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 0.5%H粉剤DL	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4kg/10a	1+4回 1+3回	7,13,20日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+4回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)(S)
だいず [※] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2500倍散布 200,250L/10a	1+3回	14,21日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種前播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.002(1+3回,14日) 圃場B:0.016(1+3回,14日)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	植付時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,500倍散布 200,250L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	植付時播溝処理土壌混和 2g/株 1,000倍散布 25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.03(1+3回,14日) 圃場B:0.01
かんしょ (塊根)	2	0.5%粒剤	定植時作業処理土壌混和 9kg/10a	1回	116日 104日	圃場A:<0.01(1回,116日) 圃場B:<0.01(1回,104日)
てんさい (根部)	2	16.0%水溶剤	100倍 定植時苗床灌注 1L/冊	1回	160,167,174日 161,168,175日	圃場A:<0.01(1回,160日) 圃場B:<0.01(1回,161日)
てんさい (根部)	2	20.0%フロアブル＋ 16.0%水溶剤	原液種子コーティング 489mL/1ユニット +100倍定植前苗床灌注 1L/冊 +2000倍散布 200,500L/10a	1+4回	14,21,30日 14,21,28日	圃場A:<0.01(1+4回,14日)(#) 圃場B:0.02(1+4回,14日)(#)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
だいこん (根部)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a ＋2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.016(1+2回,14日) 圃場B:0.014
だいこん (葉部)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a ＋2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.84 圃場B:2.26
だいこん (つまみ菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	10日	圃場A:0.48
だいこん (間引き菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	22日	圃場A:0.14
キャベツ※ (葉球)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日 3,7,13日	圃場A:0.18 圃場B:0.16
レタス※ (茎葉)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:0.58(1+2回,3日)(#) 圃場B:1.33(1+2回,3日)(#)
ねぎ※ (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a ＋4回株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.05(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.14(1+4回,3日)(#)
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 200,150L/10a	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.09(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.13(1+4回,3日)(#)
トマト※ (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 250L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.226(1+3回,7日) 圃場B:0.120
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 200,150-200L/10a	1+2回	1,3,7日	圃場A:1.21(1+2回,1日)(#) 圃場B:1.02(1+2回,1日)(#)
なす※ (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 162.5-200,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.290(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.379(1+3回,1日)(#)
きゅうり※ (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.695 圃場B:0.224
メロン※ (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.038(1+3回,3日) 圃場B:0.012(1+3回,3日)
すいか※ (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.022 圃場B:0.011(1+3回,7日)
温州みかん※ (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.246 圃場B:0.086(3回,14日)
温州みかん※ (果肉)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.02(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.08(1+3回,21日)(#)
温州みかん※ (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:3.24 圃場B:1.09(3回,14日)
温州みかん※ (果皮)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.74(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.96(1+3回,14日)(#)
夏みかん※ (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.023(3回,21日) 圃場B:0.292(3回,14日)
夏みかん※ (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.362(3回,21日) 圃場B:2.18(3回,14日)
夏みかん※* (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.118(3回,21日) 圃場B:0.726(3回,14日)
すだち (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.297
かぼす (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.204
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.155 圃場B:0.042
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 350,400L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.15 圃場B:0.06
なし (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300,500L/10a	3回	1,6,13日 1,7,14日	圃場A:0.39 圃場B:0.18
もも※ (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.124 圃場B:0.084(3回,14日)
もも (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:1.00 圃場B:2.04
うめ (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 700,500-800L/10a	3回	7,14,21,28日	圃場A:0.97 圃場B:1.12(#)
おうとう (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 625,500L/10a	2回	1,3,7,14日	圃場A:1.08 圃場B:1.96
ぶどう※ (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300L/10a	3回	14,28,42,56日	圃場A:0.506 圃場B:1.43(3回,28日)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃 場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
かき (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400,500L/10a	3回	7,13,21日 7,14,21日	圃場A:0.11 圃場B:0.14
茶* (荒茶)	3	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	1回	7,14,21日	圃場A:37.6 圃場B:2.42(1回,14日) 圃場C:9.92
茶 (浸出液)	3	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	1回	7,14,21日	圃場A:36.4 圃場B:2.27 圃場C:8.70
いちご* (果実)	2	0.5%粒剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株	1回	97,104日 62,69日	圃場A:0.22(1回,97日)(#) 圃場B:0.06(1回,62日)(#)
あんず* (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 556,500L/10a	3回	3,7,14日 3,7,14日	圃場A:0.72(3回,3日)(#) 圃場B:1.06(3回,3日)(#)
れんこん (根)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 12kg/10a、全面散布	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
れんこん (根茎)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	植付時植溝処理 12kg/10a +2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
いんげんまめ* (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 150,244L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.02(1+3回,7日)(#)
あずき* (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 300,150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.09(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.03(1+3回,14日)(#)
プロコリー* (花蕾)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200L/10a	1+3回	3,7,14日	圃場A:0.33(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.07(1+3回,3日)(#)
アスパラガス* (若茎)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.10 圃場B:0.24
リーフレタス* (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200-230,238L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:7.96(1+2回,7日)(#) 圃場B:6.67(1+2回,7日)(#)
サラダ菜* (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 150-200,195L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:9.99(1+2回,3日)(#) 圃場B:4.41(1+2回,3日)(#)
えだまめ* (さや)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植溝穴処理土壌混和 6kg/10a+2000倍散布 200,300L/10a	1+3回	3,7,14日	圃場A:0.26(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.69(1+3回,3日)(#)
にら* (茎葉)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:6.18 圃場B:1.42
ネクタリン (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 400,500L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.64 圃場B:0.58
すもも (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 500,400L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.10(3回,7日) 圃場B:0.04
ミニトマト* (果実)	1	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 300~400L/10a	1+3回	1,7,14日	圃場A:0.66(1+3回,1日)(#)
ミニトマト* (果実)	1	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 300L/10a	1+3回	1,7,14日	圃場A:0.90
にがうり (果実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 250,180L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.28(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.16(1+3回,1日)(#)
チンゲンサイ (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200,300L/10a	1+3回	14日	圃場A:0.16(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.85(1+3回,14日)(#)
みずな (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 40-150,227.8L/10a	1+3回	7,14日	圃場A:1.07(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.46(1+3回,7日)(#)
おくら (果実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 200,100-150L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.36(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.30(1+3回,1日)(#)
マンゴー (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 320L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.06
マンゴー (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 320L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.06
いちじく (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 400L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.27
いちじく (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.07
あさつき (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a +株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.59(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.96(1+4回,7日)(#)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a + 株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.13(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.04(1+4回,14日)(#)

*各試験区の果肉/果皮重量比（圃場A:72%/28%、圃場B:70%/30%）を用いて算出した。

#これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

\$ だいず（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

※印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

また、太字斜体で示した経過日数(13日)の試験については、

本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「クロチアニジン」に記載されている作物残留試験成績は、

各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、

上記の最大残留量の定義と異なっている。